

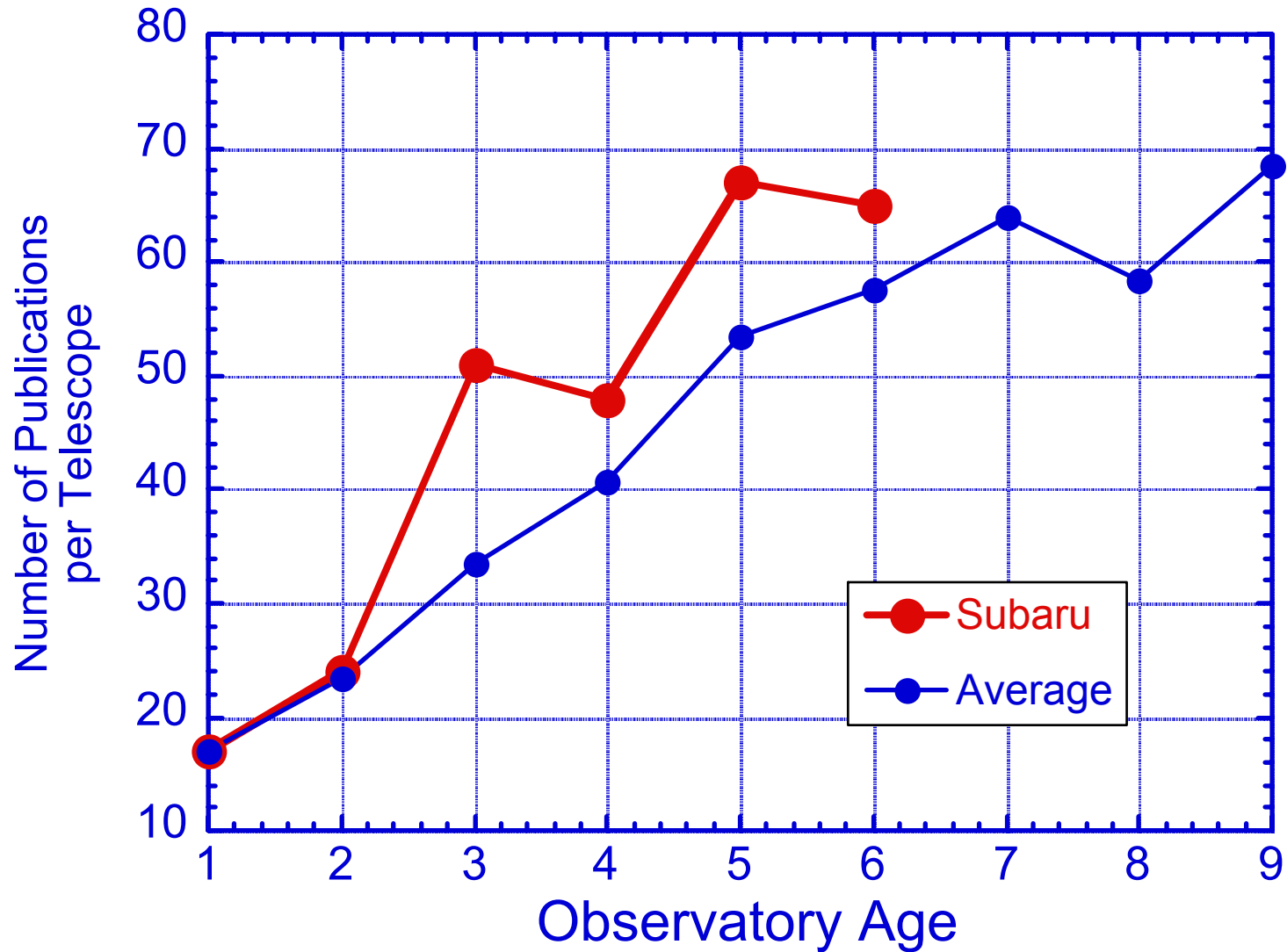
Subaru Telescope 2006

Masa Hayashi
Subaru Users' Meeting
January 30, 2007

Major Events in 2006

- Change of Director
- Semester synchronized with other MK Obs.
Semester A from Feb to Jul / B from Aug to Jan8
- Time exchange with Gemini
- Grant-in-aid approved for Hyper Suprime-Cam fabrication (PI: Karoji)
- Collaboration with MPIA (IRWFS for AO 188)
- Collaboration with ASIAA and Princeton Univ.
- SAC Report
- Earthquake

Publications



(Average: over CFHT, Keck, VLT, Gemini & Subaru)

News Releases

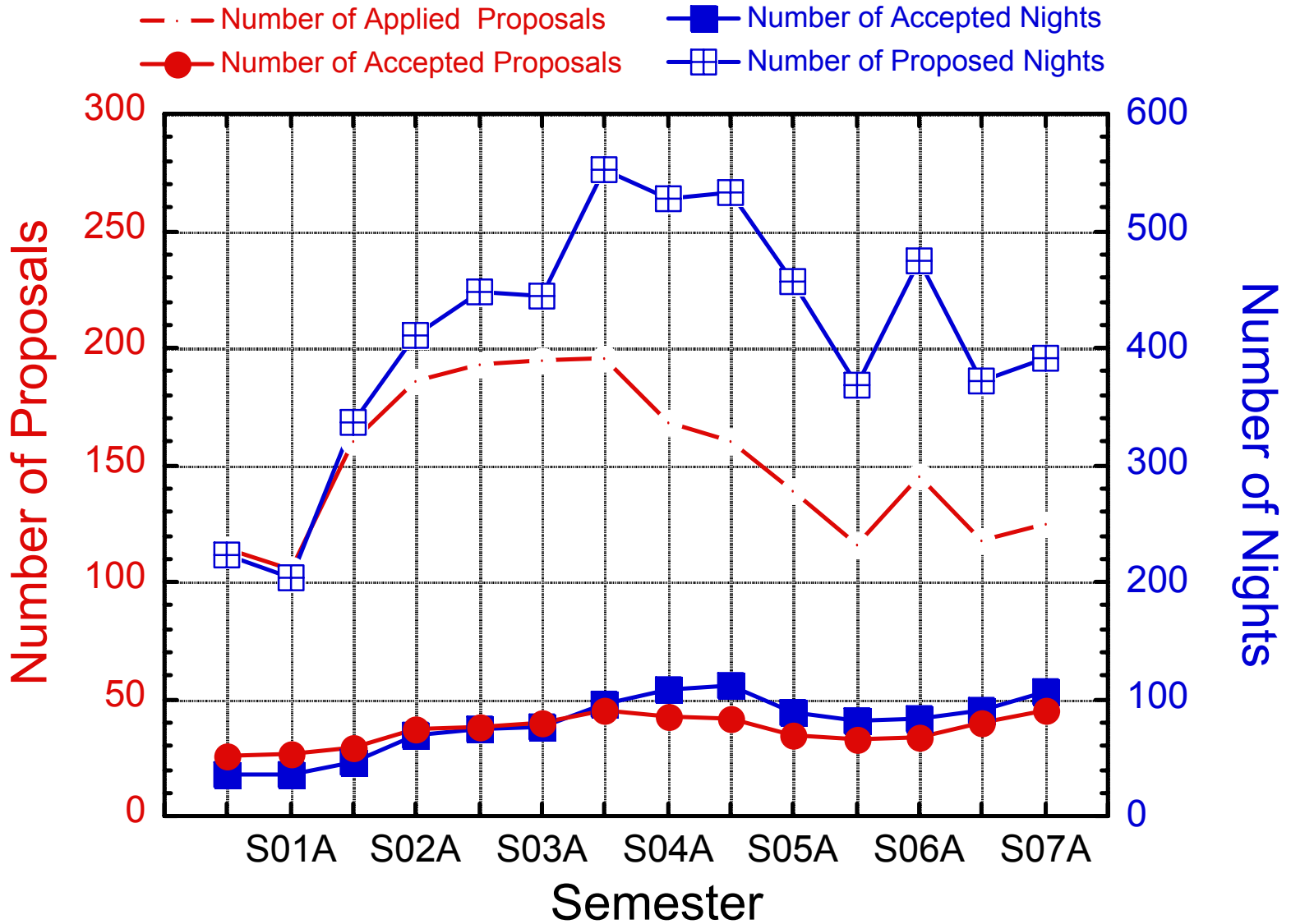
2006年 13回

- 2月15日 塵に埋もれた超巨大ブラックホールたち(今西昌俊)
- 3月27日 高校生がすばるで観測 -すばるマカリィ・スクール-
- 4月10日 スーパーコンピュータで銀河の進化を解明 -橿円銀河の生い立ち-(森正夫)
- 4月20日 がか座ベータ星の塵円盤からの赤外線の違い(田村元秀)
- 5月11日 すばる、崩れゆくシュヴァスマン・ヴァハマン第3彗星をとらえる
- 5月25日 ガンマ線バーストで探る初期宇宙-誕生後9億年で、宇宙はすでに電離していた(戸谷友則)
- 6月27日 すばる、新しい形の円盤を発見〜多波長赤外線で見ると星誕生の現場の姿〜(深川美里、藤原英明)
- 7月13日 “すばる望遠鏡”が土星に新衛星9個を発見(David Jewitt)
- 7月26日 銀河の誕生を彩る巨大ガス天体と宇宙所期の大規模構造(林野友紀)
- 8月29日 すばる望遠鏡、127億年前の宇宙に超巨大ブラックホールを発見(後藤友嗣)
- 9月13日 「最も遠い銀河の世界記録を更新」-宇宙史の暗黒時代をとらえ始めたすばる望遠鏡(家正則)
- 10月23日 見えた 原始惑星系ガス円盤の内壁〜円盤消失のメカニズムに迫る〜(後藤美和)
- 11月20日 レーザーガイド補償光学のファーストライト成功 -すばる望遠鏡の視力を10倍にするレーザーガイド補償光学!〜(家正則)

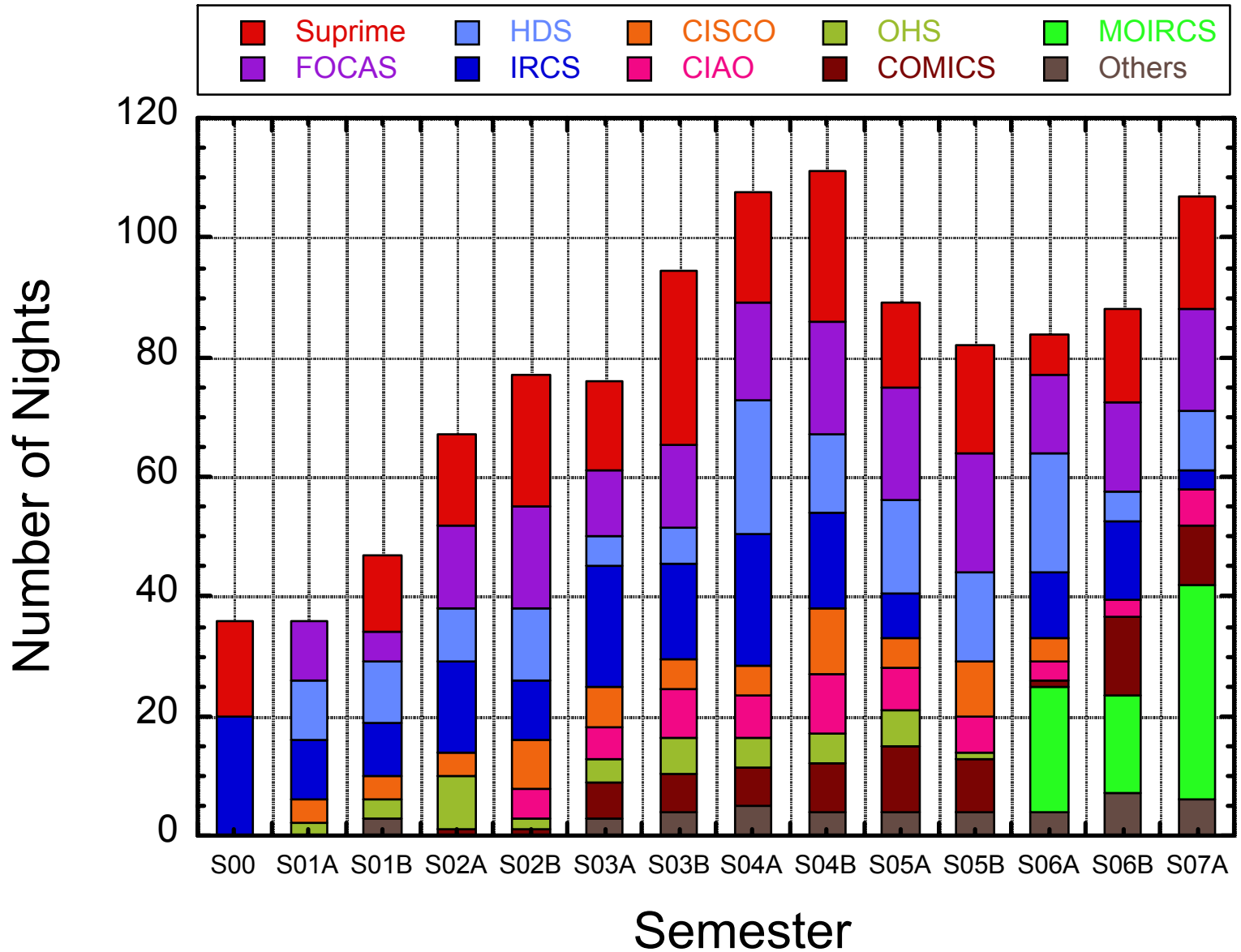
2007年

- 1月7日 宇宙の暗黒物質の空間分布を初めて測定 -“ダークマターの中で銀河が育つ”銀河形成論を観測的に検証(谷口義明)
-

Proposal Statistics



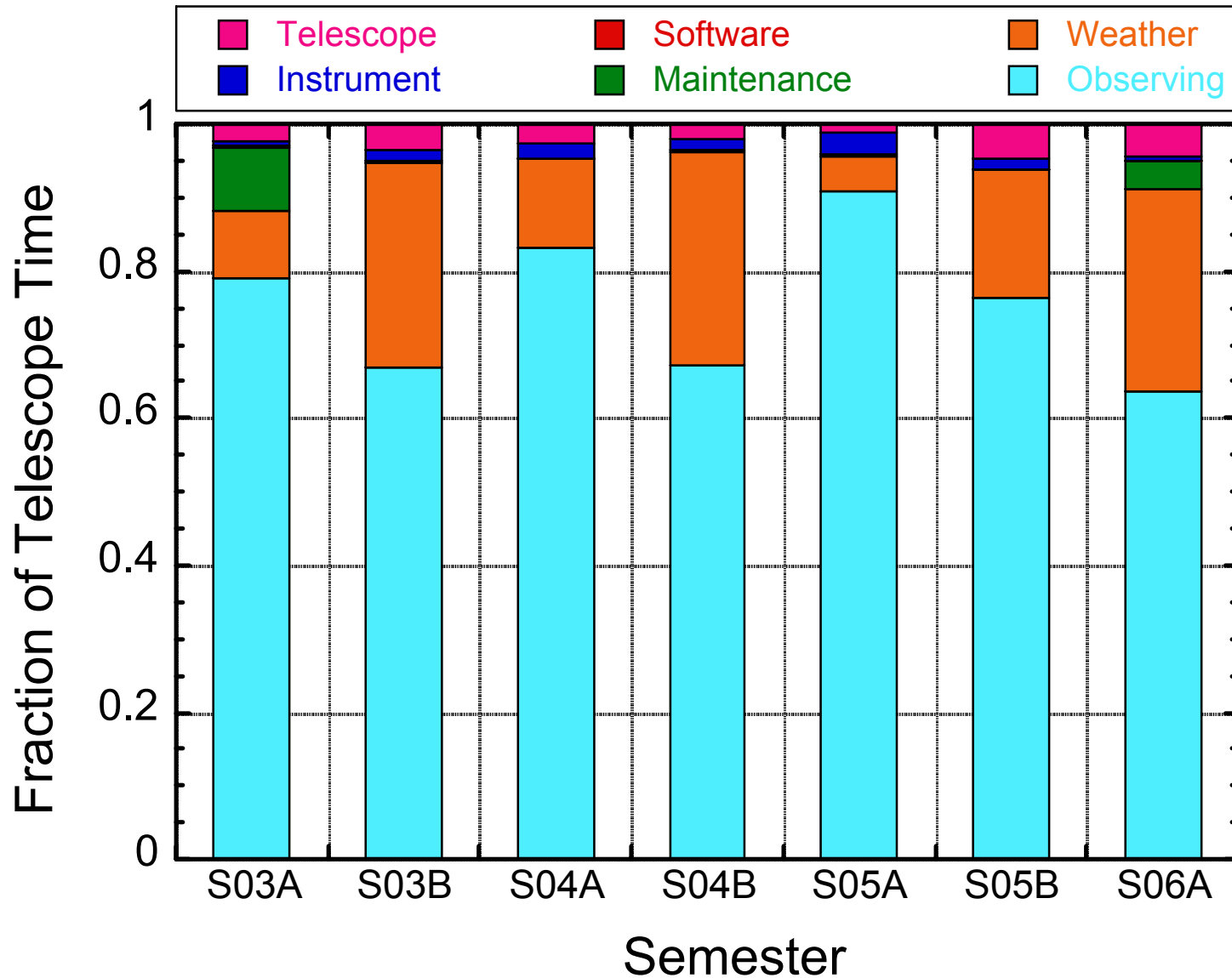
Instrument Usage



Instrument Status

- MOIRCS
 - Imaging mode opened for S06A
 - Spectroscopic mode open for S06B
- Suprime-Cam
 - To full depletion CCDs in 2007
- AO188 (NGS/LGS)
 - Commissioning
- FMOS
 - Test in Hilo
- Hyper Suprime-Cam
 - Conceptual design studies
- HiCIAO
 - Draw up a campaign program

Downtime Statistics



すばる小委員会からの提言

1. 短期的課題

MOIRCS GTに関する議論から進展した共同利用時間の戦略的運用について

2. 中期的課題

- A. 成果の向上に向けたより効果的な観測モード(キュー、サービス、リモート観測)の検討
- B. すばる望遠鏡と大学教育の有機的連携
- C. アーカイブの有効利用
- D. すばる望遠鏡による成果のより一層の普及活動



3. 長期的課題

コミュニティーを主体とした次世代観測装置の戦略的開発について

すばる小委員会提言への対応

1. 共同利用時間の戦略的運用

戦略的運用が必要であると思われる観測装置(HiCIAO, FMOS, HyperSuprime)については、ハワイ観測所が原案を提示し、すばる小委員会やユーザーズ・ミーティングを通じてコミュニティとの議論をはかった後、実行に移したい。今後、各装置の開発進捗に合わせ、それぞれの装置の適性に応じた具体案を提案したい。

2-A. 成果の向上に向けたより効果的な観測モードの検討

最も優先する課題として、三鷹からのリモート・モニタの体制(利用方針の明確化など)を整える。サービス観測については、当面、現在の運用を継続するが、将来的には有効性を見極めて増減を判断する必要がある。キュー観測については、3年程度をかけて実現可能性を総合的に検討する必要がある。

すばる小委員会提言への対応

2-B. すばる望遠鏡と大学教育の有機的連携

バーチャル体験ページ、解析講習会、大学院生の観測への参加、持込装置の条件緩和、検出器サポート

2-C. アーカイブの有効利用

Suprime-Camによる有名領域のデータの処理済みアーカイブ・データの公開を優先的に進めたい。プロジェクト研究員1名をこの仕事のために採用し、作業を進めたい。

2-D. すばる望遠鏡による成果のより一層の普及活動

これまで活動の対象から抜けていた学生(大学生)や他分野の研究者などに対しても、成果の普及を促進する。関連学会誌における特集記事の売り込みや、ホームページ上でのより専門的な成果紹介記事などを開始したい。

すばる小委員会提言への対応

3. 次世代観測装置の戦略的開発について

ユーザーズ・ミーティング等での議論をもとに、すばる小委員会で検討された装置案の実現をめざす。

他の大型望遠鏡との時間交換を有効に利用し、幅広い観測機会をユーザに提供する。

Major Issues in 2008

- Steady operation and outcomes
- Computer contract renewal
- Design studies for Hyper Suprime-Cam
- Give shape to international collaboration with Taiwan and Princeton Univ.
- Time exchange with Keck (from S07B)